

要 望 書

北海道ちほく高原鉄道株式会社
代表取締役社長（北見市長） 神田孝次様

私達は、貴社がふるさと銀河線を岡山電気軌道株式会社に継承されるよう心からお願い申し上げます。

バス転換では「利用者が減り、便数が減り、赤字が増える」悪循環を生むだけです。

ふるさと銀河線（以下、「銀河線」）は貴社が「廃止届」を出したために、バスへの転換が進められようとしています。しかし、バスに転換しても赤字が解消することはなく、むしろ時間の不正確さや長時間の乗車、冬場の待合所の寒さや運行障害によって、「利用客が減り、赤字が増え、便数が減り、また利用者が減る」という悪循環を生むだけです。

バス転換では過疎化が進み、やがては陸の孤島になる町も。

バス転換による不便さの結果、銀河線沿線にある高校には学生が集まらず、やがては廃校になります。沿線外の高校へ通うことも難しくなります。病院通いのお年寄りも冬場にバスを待つことは出来ません。結局、便利な沿線外の町に人々は転出し、沿線の町々の過疎化は一挙に進み、バスも走らない陸の孤島になる町も出てきます。

ふるさと銀河線を第二の貴志川線にしてください。

継承会社の誘致を検討してください。

南海電鉄貴志川線（和歌山県）は「廃止届」後の「代替交通確保協議会」において岡山電気軌道株式会社を継承会社とすることで、存続することができました。岡山電気軌道株式会社は、銀河線についても「条件を整えば承継可能」といっています。貴社取締役会において岡山電気軌道株式会社が承継可能とする条件について真摯に御検討いただくとともに、同社を訪問され詳細な条件を聴取されるよう心からお願い申し上げます。

沿線住民の熱意と責任を示します。

岡山電気軌道株式会社が銀河線を承継する条件に、「沿線住民の熱意と責任を示す」ことがあります。私たちはそうした熱意と責任を示すために、同社が立上げる新会社に資本参加する「株式購入運動」を推進します。

官から民へ、マイレール意識で黒字転換をめざします。

私達は、沿線住民の多くが新会社の株主になることで、今までの第三セクターでは持ち得なかったマイレール意識を持ち、黒字転換に向け様々な行動を行います。世界自然遺産知床を有する道東の地の利を最大限に生かし、地元観光業者、農業関係者、産業関係者と連携し、新しい鉄道経営を創造します。

承継会社に対し資料提供をしてください。

新会社に長期に安定して銀河線を運行していただくためには、詳細な経営分析が必要です。このため、貴社における詳細資料を岡山電気軌道株式会社に提供されるようお願いいたします。合わせて、同社が経営分析を行い、貴社が鉄道承継への社内論議を行うため、北海道運輸局に対し「代替交通確保協議会」の一時中断を要請されるよう、重ねてお願い申し上げます。

